

橋梁の塗装塗替工事が県内トップ コンクリート補修で業績拡大へ

福德技研

塗装、建築業の
福德技研（中区東
千田町2-3-1
26、徳納剛社長）
は、今年集計され
た2019年度の
自治体からの橋梁
塗装塗替工事
の受注額が2億2
900万円と県内
トップとなった。
20年度も約5億円
を受注しており、
2年連続トップと
なる見通し。今後
も塗装事業で足元
を固めつつ、注力
するコンクリート補修事業・材料販
売事業を押し広げ、売上高20億円超
を目指す。

これまでも18年の安芸大橋や16
年の相生橋の塗り替え塗装工事を受
注しており、こうした実績や職人の
技術、経営状況などから受注につな
がったとみる。広島県の橋梁塗り替
え工事は19年度の発注総額約4億円
のうち、半分以上を安芸灘2期地区
鹿島大橋が占めており、同社はこれ
を含め2件を受注。20年度も鹿島大
橋（約2億5000万円）と尾道大
橋（約2億4400万円）を落札し
たことから、2年連続トップとなる
見込みだ。塗装ではこのほか、通信
鉄塔やビル、住宅などを施工してお
り、毎年約5億円を売り上げる。

一方、徳納社長はコンクリートの
補修技術の普及へ①コンクリートメ
ンテナンス協会の会長も兼務してい
る。亜硝酸リチウムを用いたコンク
リート補修技術がNETIS登録さ
れているほか、18年に中国地域ニユ
ービジネス大賞を受けており、こう
した技術を全国に発信する。現在約
150社が加盟しており、将来は3
00社を計画。加盟企業向けに行う
コンクリート補修材料の販売規模は
約3億円で、今後10億円を目指す。

20年5月期の売上高は17億3399
万円で、21年売上高は13億円を見込
んでいる。

